

日本陸水学会東海支部会 Tokai Branch of the Japanese Society of Limnology

第 28 回 研究発表会 要旨集

Abstracts of the 28th research meetings



2026年2月14日（土曜日）, 15日（日曜日）

14 and 15 February 2026

南山学園伊勢海浜センター

Ise Marine Seminar House of the Nanzan School Corporation

〒516-0001 三重県伊勢市大湊町 497-1

Ohminato-cho 497-1, Ise City, Mie Prefecture 516-0001, Japan

2025 年度 日本陸水学会東海支部会役員

会長：椿 涼太（神戸大学）

副会長：戸田三津夫（静岡大学）

庶務担当幹事：須田ひろ実（株式会社ニック環境システム）

会計担当幹事：松本嘉孝（豊田工業高等専門学校）

事業担当幹事：松本嘉孝（豊田工業高等専門学校）・野崎健太郎（椋山女学園大学）

社会貢献（地域）担当幹事：田代 喬（名古屋大学）

社会貢献（広域連携）担当幹事：井上祥一郎（株式会社名邦テクノ）

陸の水ニュースレター担当幹事：岡本聖矢（国立研究開発法人 土木研究所）

助成金担当幹事（日本陸水学会幹事長）：谷口智雅（三重大学）

広報（web site）担当幹事：白金晶子（矢作川研究所）

将来計画担当幹事：鎌内宏光（名古屋大学）

会計監査：内田臣一（愛知工業大学）

陸の水論文集編集委員長：野崎健太郎（椋山女学園大学）

表紙写真の説明 三重県の陸水環境

A. 四日市市西村町地内市場溜のマンボ（撮影：大八木麻希博士，四日市大学，2025 年 1 月 20 日，発表番号 2 参照）。

B. 櫛田川水系庄司谷川（つつじの里・荒滝という民宿の近く）。この写真に映っている河道は，中央で，ちょうど中央構造線を跨いでいるようです（撮影と解説：田代 喬博士，名古屋大学，2012 年 9 月 27 日）。

C. 員弁川上流（撮影：辻 彰洋博士，国立科学博物館植物研究部，発表番号 20 参照，2014 年 2 月 16 日）。

D. 東員町の自噴井戸（撮影：谷口智雅博士，三重大学，2012 年 7 月 20 日）。



南山学園 伊勢海浜センター（撮影：田代 喬博士，名古屋大学，2023 年 2 月 18 日）。

参加者一覧

申込順	名前	所属	発表番号	発表日
1	野崎健太郎	梶山女学園大学教育学部 教員	1	14日
2	岡本聖矢	土木研究所自然共生研究センター 研究員	23	15日
3	谷口智雅	三重大学 教員	5	14日
4	井上祥一郎	日本陸水学会東海支部会 幹事（広域連携）		
5	松本嘉孝	豊田工業高等専門学校 教員	13	14日
7	高橋菜乃	梶山女学園大学教育学部 学生	4	14日
8	秋田陶湖	梶山女学園大学教育学部 学生	17	15日
9	岸 楓月	梶山女学園大学教育学部 学生	14	14日
10	日比夢菜	豊田工業高等専門学校 学生	9	14日
11	大八木英夫	南山大学総合政策学部 教員	3	14日
12	廣田遊史	滋賀県立大学 学生	11	14日
13	戸田三津夫	元静岡大学 副会長	18	15日
14	千藤克彦	岐阜県博物館 学芸専門職	21	15日
15	村瀬秀也	岐阜県公衆衛生検査センター		
16	皆川明子	滋賀県立大学 教員	11	14日
17	峰 衣吹	梶山女学園大学教育学部 学生	12	14日
18	三ツ矢夢花	梶山女学園大学教育学部 学生	7	14日
19	辻 彰洋	国立科学博物館植物研究部 研究員	20	15日
20	内田臣一	愛知工業大学 教員		
21	椿涼太	神戸大学 教員 会長		
22	宇佐見亜希子	名古屋大学減災連携研究センター 研究員	19	15日
23	小野田幸生	豊田市矢作川研究所 研究員	16	15日
24	内田朝子	豊田市矢作川研究所 研究員	25	15日
25	白金晶子	豊田市矢作川研究所 研究員	22	15日
26	伊藤信一	浜松学芸中学校高等学校 教員	6	14日
27	辻野兼範	静岡大学 教育支援員	8	14日
28	大八木麻希	四日市大学環境情報学部 教員	2	14日
29	今原 良	浜松学芸中学校高等学校 学生	6	14日
30	上野公彦	岐阜県可茂土木事務所		
31	陳 弦恩	南山大学 学生	3	14日
32	石川進一郎	愛知工業大学 大学院生		
33	森井悠斗	愛知工業大学 学生		
34	田代 喬	名古屋大学 教員	10	14日
35	鎌内宏光	名古屋大学 職員	15	14日
36	野田賢司	愛知大学総合郷土研究所 研究員	24	15日

発表会場は食堂です。発表用にノート PC を用意しますが、ご自身の PC でも発表できます。発表時間は質疑応答、交代時間を含めて 12 分です。司会者、時間計測者は、目安として経過時間 6 分、9 分、11 分で発表者に合図をします。

2 月 14 日（土）13 時 15 分から開始します。発表者名は筆頭者のみです。

第 1 発表 13 時 15 分～14 時 15 分 司会：松本嘉孝（豊田工業高等専門学校）

13:15 発表 1

野崎健太郎（椋山女学園大学教育学部）溪流における細菌群集の季節変化—猿投山における事例研究

13:27 発表 2

大八木麻希（四日市大学環境情報学部）三重県営北勢中央公園のため池からマンボにおける流下水の水質変化

13:39 発表 3

陳 弦恩（南山大学）深見池における炭素循環—物理的成層と微生物活動の相互作用—

13:51 発表 4

高橋栞乃（椋山女学園大学教育学部）保育現場におけるサツマイモのお菓子づくりを通じた食育

14:03 発表 5

谷口智雅（三重大学）三重県津市の二級河川河口域のマイクロプラスチック

時間調整および休憩（15 分）

第 2 発表 14 時 30 分～15 時 30 分 司会：大八木麻希（四日市大学）

14:30 発表 6

今原 良（浜松学芸中学校高等学校）佐鳴湖の汚泥改善実験

14:42 発表 7

三ツ矢夢花（椋山女学園大学教育学部）保育現場の食育活動におけるドングリの利用拡大の可能性

14:54 発表 8

辻野兼範（静岡大学）三方原台地の PFAS の現状と展望

15:06 発表 9

日比夢菜（豊田工業高等専門学校）地下水中の硝酸性窒素除去を促進する有機物溶出特性の把握

15:18 発表 10

田代 喬（名古屋大学）天ヶ瀬ダム下流の宇治川における流況特性の分析

時間調整および休憩（15分）

第3発表 15時45分～16時45分 司会：田代 喬（名古屋大学）

15:45 発表 11

廣田遊史（滋賀県立大学）農業排水路に施工される環境配慮施設の維持管理を軽減できる構造の解明

15:57 発表 12

峰 衣吹（椋山女学園大学教育学部）知的障害をともなうダウン症候群者の認知機能の解析

16:09 発表 13

松本嘉孝（豊田高専）中山間地域における家庭の水使用実態とその使用傾向

16:21 発表 14

岸 楓月（椋山女学園大学教育学部）土の中の細菌を探せ！～身の回りの土の中に生息する細菌数と環境要因との関係～

16:33 発表 15

鎌内宏光（名古屋大学）新しい陸水学を考える

発表終了後、第29回総会（会員および入会希望者）を行います。

2月15日（日）9時00分から開始します。発表者名は筆頭者のみです。

第4発表 9時～10時 司会：内田朝子（豊田市矢作川研究所）

9:00 発表 16

小野田幸生（豊田市矢作川研究所）小河川における水際の植物の刈り残しが魚類に及ぼす効果

9:12 発表 17

秋田陶湖（梶山女学園大学教育学部）食を通じた異文化教育—フィリピン料理を通して育む国際理解—

9:24 発表 18

戸田三津夫（元静岡大学）佐鳴湖の魚介をいろいろ食べてみた

9:36 発表 19

宇佐見亜希子（名古屋大学）活火山周辺のダム減水区間に形成された特異的水域における河床付着物組成の空間分布特性

9:48 発表 20

辻 彰洋（国立科学博物館植物研究部）石灰岩—緑色岩境界からのみ見つかる淡水産珪藻の狭分布種 *Edtheriotia shanxiensis* (≡ *Cyclotella shanxiensis*) の分布調査

時間調整および休憩（15分）

第5発表 10時15分～11時15分 司会：鎌内宏光（名古屋大学）

10:15 発表 21

千藤克彦（岐阜県博物館）底生生物調査から明らかになった阿木川ダム下流部の河床の変化

10:27 発表 22

白金晶子（豊田市矢作川研究所）なわばりアユの在・不在および物理環境がヤマトビケラ科の生息におよぼす影響—土砂還元が行われている矢作川の事例—

10:39 発表 23

岡本聖矢（国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センター）過剰繁茂した付着藻類に対する水生昆虫のトップダウン効果

10:51 発表 24

野田賢司（愛知大学総合郷土研究所）曾根城公園とその周辺の井戸・池・河川の水位と水温の季節的動向

11:03 発表 25

内田朝子（豊田市矢作川研究所）水涸れした清滝川の底生動物